

グローバル創造社会を

Designing The Global Creative Society

デザインする

■ 開催日時 **2009年3月6日(金) 9:30—18:10**

■ 開催場所 シンポジウム会場：慶應義塾大学三田キャンパス 北館ホール
 ショーケース：慶應義塾大学三田キャンパス 北館ホワイエ
 4K上映会：慶應義塾大学三田キャンパス 東館6F グローバルスタジオ

■ 交通アクセス <http://www.keio.ac.jp/access.html>

■ 主催 慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構

■ プログラム

9:30—9:45 開会挨拶 ◇安西祐一郎DMC機構長
 9:45—9:55 挨拶 ◇岩瀬公一 文部科学省科学技術・学術総括官
 10:00—10:30 組織改革成果報告 ◇村井純DMC機構長代理
 10:30—11:30 研究成果報告 ◇斉藤賢爾PMO委員長
 11:30—11:45 人材育成報告 ◇稲蔭正彦KMD委員長
 11:45—12:00 評価委員長総括コメント ◇池上徹彦DMC機構評価委員長
 12:20—13:30 プロジェクトショーケース@北館ホール前/東館6F(4K上映)

13:30—14:30 ARTセッション 「ディレンマ/クレヴァスとともに」モデレーター◇前田富士男(文学部教授)

「現代アートとタイム・クレヴァス(仮)」◇水沢勉 (<横浜トリエンナーレ2008>総合ディレクター、神奈川県立近代美術館)
 「創造活動における身体性のトポス」◇前田富士男(文学部教授)
 「身体・コントラ・デジタルのデザイン」◇美山良夫(文学部教授) + ◇森下隆(アート・センター)
 ⇒ 舞踏家山本萌による会場での身体表現と、アーカイヴ画像上映
 ⇒ 声楽家(ソプラノ) 広瀬奈緒による会場での演奏と、デジタル化楽譜の紹介
 ⇒ 北館ホール内におけるデューラー、ピカソ、クレー、ボイス、草間彌生らの作品展示

14:30—15:30 TECHNOLOGYセッション 「テクノロジーが拓くメディア・コンテンツの新たな地平」モデレーター◇太田直久(KMD教授)

「映像可視化の最前線と課題」◇Dr. Tom DeFanti (Research Professor, University of California, San Diego)
 「高品質ライブコンテンツの最前線と課題」◇小野定康(DMC機構教授)
 「コンテンツ創造学の最前線と課題」◇金子満(東京工科大学教授)
 「コンテンツ利・活用、保存の最前線と課題」◇Mr. Laurin Herr (President, Pacific Interface)

15:30—15:50 休憩

15:50—16:50 POLICYセッション 「未来創造社会のための国家戦略」モデレーター◇金正勲(DMC機構准教授)

◇Kyong Sanghyun(初代韓国情報通信大臣) ◇内海善雄(国際電気通信連合 ITU 前事務総局長)
 ◇菊池尚人(DMC機構准教授)

17:00—18:00 Digital Media and Content モデレーター◇中村伊知哉(KMD教授)

◇村井純(DMC機構長代理) ◇青山友紀(DMC機構副機構長)
 ◇所真理雄(DMC機構副機構長) ◇前田富士男(文学部教授)

18:00—18:10 閉会挨拶 ◇村井純DMC機構長代理

■ 使用言語：午前の部 日本語、午後の部 英語 or 日本語(同時通訳あり)

■ 定員：220名

■ 申込方法：お名前、ご所属、E-mailをお書きの上、件名：「シンポジウム申込」として下記までE-mailでお申し込みください。

dmc-sympo090306@dmc.keio.ac.jp

本シンポジウムは文部科学省科学技術振興調整費による委託契約に基づき、開催されています。